

ダンス研究の文献翻訳における難しさと課題：  
マーサ・エディ著「ソマティック実践とダンス  
の小史」の翻訳プロセスから

橋本有子（お茶の水女子大学）

村越直子（武庫川女子大学）

## I 背景

本発表は、ダンスに関する文献を英日翻訳する上で直面した難しさと課題を共有する。現在、英語で書かれたダンス関連書は数多くあるが日本語では限られる。そこで発表者らは、国内のダンス研究に貢献し得る海外の文献を紹介するため、ダンス研究とソマティクス研究の関連とその系譜を明示したとして価値が認められているエディの文献 ‘A Brief History of Somatic Practices and Dance: Historical Development of the Field of Somatic Education and its Relationship to Dance, *Journal of Dance & Somatic Practices*, 1(1):5-27. の翻訳（村越・橋本 2022）に取り組んだ。

ソマティクスは、19世紀後半～20世紀にヨーロッパで興った「からだ・動きの探究」をルーツに、1970年代に米国で生まれた実践・研究領域である。個々のソマティック・システムや技法に共通する思想やアプローチを総称し、一領域として立つために生まれた。舞踊学の視点において重要なのは、内側から身体の探究をすすめるソマティクス領域の発展には、身体の探究を生業とする表現力・想像力・創造力豊かなダンサーが多なる貢献をし（Mangione 1993）また、ダンス領域もソマティクス領域から恩恵を受け続けていることである。ソマティック・アプローチは、欧米の高等教育ダンス課程において定着しており、ダンス研究者によって、その実践研究やその関連論文も多く記されている。したがって、ソマティクス領域の研究はダンス領域へ示唆を与えることができる。

## II 方法

英日翻訳にあたり、次のプロセスを踏んだ。まず、AI翻訳ツールに全ての文章を入れ、英語と日本語を対応させた。その後、発表者各々が各文の日本語訳を一人称的対話により精査し、それを二人称的対話により共有したのち、三人称的言語表現に落とし込んだ。適切な訳が見つからず苦心した語彙については、zoomを用いて著者のEddyと議論した。全訳完成後、分野の異なる日本語ネイティブに通読してもらい、そこで得た意見を参考に検討を重ねた。

なお、発表者二人はダンスを専門とし、それぞれカナダ在住24年、米国在住歴7年である。現地でソマティック・エデュケーションに出会い、その後は其々ソマティック・システム/技法（ミツヴァ・テクニク、LBMS, EddyのBMD）の認定資格を取得した。

## III 結果

下記に、英日翻訳する上で直面した難しさと課題を共有する。

### 1) 難しさ

まず明らかになったのは「ソマティクス領域とAI翻訳ツールの相性の悪さ」である。明らかに、通常の翻訳スピードより大幅に時間を要する部分がありAIの混乱が伺えた。その理由として、エディ独特の文章の翻訳の難しさが挙げられる。加えて身体/感覚的な言語が的確に訳されていなかったことから、それら言語のデータが蓄積されていないことが予測された。頻出した身体/感覚的な言語の例（日本語）として、ソマティクス（身体論）、アウェアネス（気づき、気づく、意識）、ボディマインド（身心）が挙げられる。これらは、身体的に納得できる日本語が見つからずカタカナ表記とした。

関連して「言語が文化・社会が内在化した身体と結びついている」難しさである。本プロセスでは、翻訳に違和感がある言葉を中心に議論をしつつ作業をすすめた。自身の身体/感覚と結びつく英語を日本語にする上で、発表者二人の間で理解し同意したとしても、日本語訳としての、一般的な三人称的言語表現が見つからないものが多々あった。

### 2) 課題

今回の翻訳プロセスを通して浮かび上がった翻訳の課題は、「身体と言語の往還」を深いレベルで行うこと、そしてそれを個人で、そして他者と、さらにコミュニティ内で行うことである。発表者らは身体の探究と言語の吟味をし続ける努力はしたが、満足できる訳語が見つからないものも多々あった。そこで、今後の課題として翻訳者に求められるものを三つ挙げる。それらは、身体と結びつく両言語を扱えること、内容を身体的、理論的に理解できること、そして文化・社会的な差異を理解していることである。また、読解しやすい訳文にするためには、英語ネイティブと日本語ネイティブの協力者が必須であることも明らかになった。

## IV まとめ

今回の英日翻訳の難しさと課題から、身体/感覚と言語を往還するプロセスそのものがソマティックな体験であり、ソマティック研究の方法論になり得ることが示唆される。発表者らは身体/感覚的な言語を日本語訳する難しさを痛感することで、その作業の意味とソマティクス領域の独自性を認識した。同時に、身体/感覚的な言語を扱う領域が抱える課題を確認した。

（文献）

Mangione, M. (1993) ‘The origins and evolution of somatics: Interviews with five significant contributors to the field’, doctoral dissertation, Columbus, OH: The Ohio State University.

村越直子・橋本有子 (2022) 「ソマティック実践とダンスの小史：ソマティック・エデュケーションの歴史的展開とダンスとの関係」

*Journal of Dance & Somatic Practices*, 14 (1): 1-27.